

心といのちを守る県民運動 次第

日時 平成24年10月10日(水)
午後2時～3時30分まで
場所 とりぎん文化会館 第3会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 議 題

<報告事項>

(1) 鳥取県の自殺について

資料1

(2) 健康づくり文化創造プラン(案)について

資料2

<協議事項>

(1) 平成24年度自殺対策事業及び25年度事業計画について

資料3

資料4

(2) ネットワークの強化及び対象者別の対策について

資料5

(3) その他

4 閉 会

心といのちを守る県民運動委員出席名簿

分野	所属団体等	職名等	氏名	備考
県	鳥取県	副知事	藤井 喜臣	
精神保健	(社)鳥取県医師会	常任理事	渡辺 憲	
	鳥取大学医学部脳神経医学講座精神行動医学分野	教授	兼子 幸一	
	(社)鳥取県看護協会	常任委員	川口 慶子	
	鳥取県精神保健福祉センター	所長	原田 豊	
多重債務問題	鳥取県弁護士会		寺垣 琢生	欠席
	鳥取県司法書士会	会長	坂本 治	
	鳥取県消費生活センター	所長	佐々木 賢二	
経営問題	鳥取商工会議所	中小企業振興部次長	林 浩志	
労働問題	鳥取労働局	労働基準部健康安全課長	西尾 克美	
	独立行政法人労働者健康福祉機構鳥取産業保健推進連絡事務所	産業保健推進員	中尾 康師	(代理) 推進員 西垣正夫
学校問題	鳥取県PTA協議会	理事	山口 一樹	欠席
	鳥取県教育センター	教育相談課長	護田 彰一	
救急医療	鳥取県立中央病院	地域連携センターがん相談支援室臨床心理士	藤松 義人	
警察	鳥取県警察本部	捜査第一課長	小谷 照美	(代理) 検視係長 坂口貴洋
		生活安全企画課長	牧野 昌晴	
自殺予防の民間団体	(福)鳥取いのちの電話	事務局次長	東 邦子	
自死遺族支援の民間団体	コスモスの会	世話人	厨子 麗子	(代理) 会員 尾崎かおる
関係民間団体	家族会(認知症の人と家族の会鳥取県支部)	認知症相談員	吉野 靖子	(代理) 相談員 岩田リカ
報道関係	(株)新日本海新聞社	編集制作局次長	倉繁 淳志	(代理) 編集制作局次長 宇田川靖
地域	鳥取県民生児童委員協議会	会長	鈴木 茂	欠席
	鳥取県連合婦人会	常任委員	佐々木 ちあ子	(代理) 船越紀子
	鳥取市中央保健センター	主査兼務健康づくり係長	稲村 英子	(代理) 主任 松川真由美
	日南町福祉保健課	主任 保健師	長谷川 照子	
職域	鳥取銀行健康保険組合	事務長	岩本 桂子	

事務局員

福祉保健部	健康医療局長		藤井 秀樹	
	健康医療局健康政策課	課長	大口 豊	
	福祉保健課	課長	中林 宏敬	(代理) 課長補佐 川本由美子
	障がい福祉課	課長	足立 正久	
商工労働部	経済通商総室経営支援室	室長	西村 昭	
	福祉保健局	副局長	長井 大	
教育委員会事務局	家庭・地域教育課	課長	宮城 絵理	(代理) 課長補佐 北村徹

福祉保健部健康医療局健康政策課	課長補佐	長岡 孝	
	係長	朝倉 貴子	
	主事	向井 未央	
精神保健福祉センター	副主幹	馬淵 伊津美	
東部総合事務所福祉保健局	係長	福田 由貴子	
	保健師	橋本 弘成	
中部総合事務所福祉保健局	保健師	岡田 桂子	
西部総合事務所福祉保健局	係長	瀬尾 厚子	
	保健師	阿部 憲太	
日野総合事務所福祉保健局	保健師	柴田 由美	欠席

平成24年度 第1回心といのちを守る県民運動 概要

日時：平成24年10月10日（水） 午後2時から午後3時30分まで

場所：とりぎん文化会館（第3会議室）

<報告事項1> 「鳥取県の自殺について」鳥取県精神保健福祉センター 原田所長

全国の自殺者数は平成10年から3万人を超えている。全国全ての都道府県において、平成10年から急増。平成24年の9月までの傾向は、昨年と比較し4分の3くらいに減少。

鳥取県も全国と同様、40歳代～60歳代の働き盛りに自殺者が多い。特に男性。原因・動機別の自殺者数について、健康問題が一番多いが、中高年男性は経済問題が増えている。20歳未満では、学校問題が増加。

未成年や20歳代の対策、働き盛り世代への対策が必要。

<報告事項2>健康づくり文化創造プラン（案）について

プランの改定案を現在策定中。健康づくり文化の定着と健康寿命の延伸を目指している。

具体的な分野の一つとして、休養・こころの健康がある。「十分な睡眠と休養は元気の源」をテーマに掲げ、目指す方向として次の3つを定めている。○十分な睡眠、休養がとられ、ストレスを感じる者の減少。○働き盛り世代のストレスの軽減、うつ病や自殺の減少。○こころの相談窓口やうつ病の相談・受診先の周知。今後の施策の方向性については、かかりつけ医から精神科へつなぐ連携の強化、産業保健を通じた働き盛り世代へのメンタルヘルスケアの推進・うつ病対策・自殺対策の強化を重点項目に掲げている。

お気づきの点があれば事務局へ連絡を。3月までに完成予定。

<協議事項1>平成24年度自殺対策事業及び25年度事業計画

各機関からの自殺対策事業について資料あり。

（医師会）精神科の医療機関・かかりつけ医の連携、精神疾患の治療や地域との医療連携などを取り組んでいる。うつ症状の中でも双極性を見分ける研修会を実施し、かかりつけ医にも積極的に関わっていただいている。かかりつけ医と精神科医の連携マニュアルの活用も毎年更新。

（精神保健福祉センター）ゲートキーパーは、さまざまな立場の人が、うつ病の知識を持って、うつ傾向の方をみかけたら早く相談機関に行っていただく等専門の窓口などを紹介する。民生委員や町職員等を対象に各市町村や様々な機関で、ゲートキーパー研修を実施している。対象者は特に決まっていない。

アルコールは寝つきをよくするが、睡眠の質をかなり悪くするので、対策としてはよくない。

（日南町）ネットワーク会議を7年続けて実施。少しずつ成果が現れてきていると実感している。町内の様々な機関の人が、相談者の気持ちを大切にし、話をよくきいている。地域力が高まっていることを感じている。

（コスモスの会）自死遺族フォーラムを12月1日開催予定。家族の思いを書いた手記「会いたい」を紹介。

（連合婦人会）精神障がい者をもつ家族の方からの話を聞く研修会を開催した。

地域の中で家族や近所が早く気づいて、専門機関に行くには、どうしたらよいかと取組みをされているが、地域の力、地域のつながりがとても大事な時代になってきていると感じる。特に声かけをすることを広めていきたい。

(教育センター) 思春期の子にアンケートを実施しながら、状況を把握中。気になる子には面談、保護者と懇談しながら、学校・家庭で注意深く見守る形をとっている。

(副知事) 9月議会に、子供たちへの意識調査や24時間の相談窓口体制に関する予算を提案中。予算が通ったら、紹介して広げていく。

(コスモスの会) 県内の身近で、子供を自殺でなくされた方もあるので、学校現場に限らずぜひ力を注いでいただきたい。

(鳥取県) 25年度の予算案について、相談窓口の整備、人材養成、普及啓発、精神医療体制、自死遺族への支援、市町村の取組みへの支援などの事業を計画。

<協議事項2>ネットワークの強化及び対象者別の対策について

(医師会) 幅広く関心を持ったり、ネットワークを動かすようなきっかけとするために、各団体の取り組みの詳細についてプレゼンテーションするなど研究会のような形をしてはどうかと提案

(鳥取商工会議所) 各団体の取組みをきくことはよい
→事務局で検討

(消費生活センター) 全国的多重債務問題は減少している。消費生活センター以外にも、弁護士会・司法書士会等で相談窓口を作られている。

一方、借りられなくなった方が水面下の闇金に走ると、厳しい取立てを受けて自殺という決断をするのではないかと。今後、いろいろな形でアンテナを張り、きめ細かに相談者へ対応し、県警と連携をとりながら、早期解決をしていかなければならない。

(日南町) 年金の未納、介護保険料の滞納等、母の介護や健康問題もあり働けなくなった50歳の男性。眠れなくなり、飲酒。アルコール問題が深刻になって支援が難しい事例がある。

(鳥取大学) 精神疾患にアルコールの問題が合併すると自殺率は高くなる。単に眠れているかだけではなく、何がよい睡眠かを絡めて睡眠キャンペーンをするとよい。

(精神保健福祉センター) 市町村・各団体は、健診から介入したり、睡眠キャンペーンとして調査票を活用して介入したり、様々な方法で実施可能。お酒にたよることはやめましょうという項目も含めてリーフレットを配布し、睡眠キャンペーンを実施したい。

<その他>

委員の任期について、10月で今期の任期満了。次回、委員の交代。